事業報告会
中学生むけプログラム「きもの科学部」
ー「きもの」を題材としたSTEAM教育プログラム開発の試みー

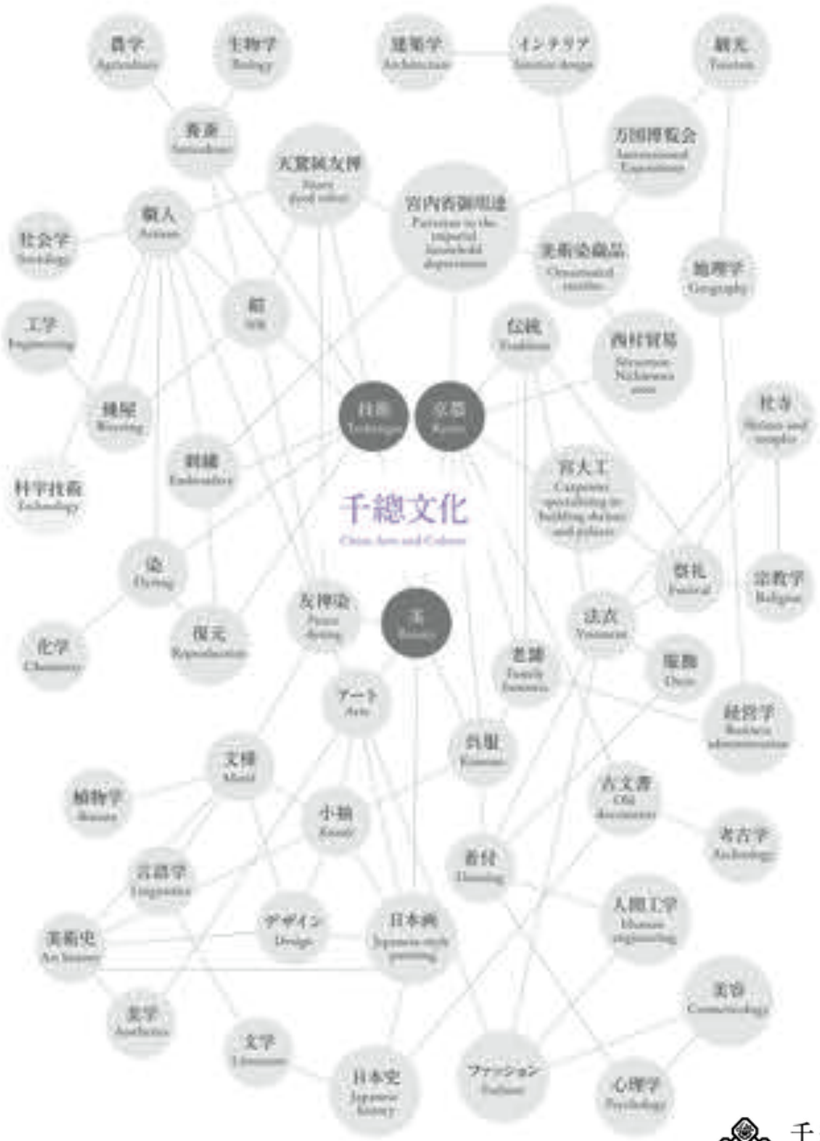
はじめに
1.「きもの科学部」開発の背景
2.「きもの科学部」の概要
3.「きもの科学部」の目標とプログラム手法
4. 実施体制
5. 実施内容
6. アンケート分析
7. 今後に向けて
質疑応答

はじめに

千總文化研究所とは

きものをはじめとする様々な染織品の企画・製造・販売を手掛ける株式会社千總（創業1555年）を母体とし、2017年に設立されました。

千總が所蔵する美術品や歴史資料、千總が手掛ける染織技術など、有形・無形の文化財を、「京都」「技術」「美」の３つのテーマを柱とし、学際的な調査研究、教育活動を実施しています。



千總文化研究所
Institute for Chiso Arts and Culture

「きもの科学部」開発の背景

文化部活動の地域への移行

教員の長時間労働、指導負担の軽減、多様な子どものニーズへの対応策として、部活動の地域移行が進められています。
文化庁は、子どもたちが身近な地域で質の高い文化芸術活動の機会を確保できるよう、地域の文化施設や文化芸術団体、芸術系教育機関などが新たな受け皿となる「地域文化倶楽部」（仮称）を創設するためのモデル事業が令和３年度より募集・実施され、課題や手法の分析・検証が行われています。
本事業は、文化庁令和４年度「地域活動推進事業及び地域文化倶楽部（仮称）創設支援事業」のもと実施されました。
千總の持つ文化財と、調査研究・教育活動を進める中で形成された各分野の専門家、研究者とのネットワークを活用し、京都に根ざす文化のひとつである「きもの」を題材に、部活動のプログラム構築を行いました。

分野横断（教科横断）型学習による創造性の育成

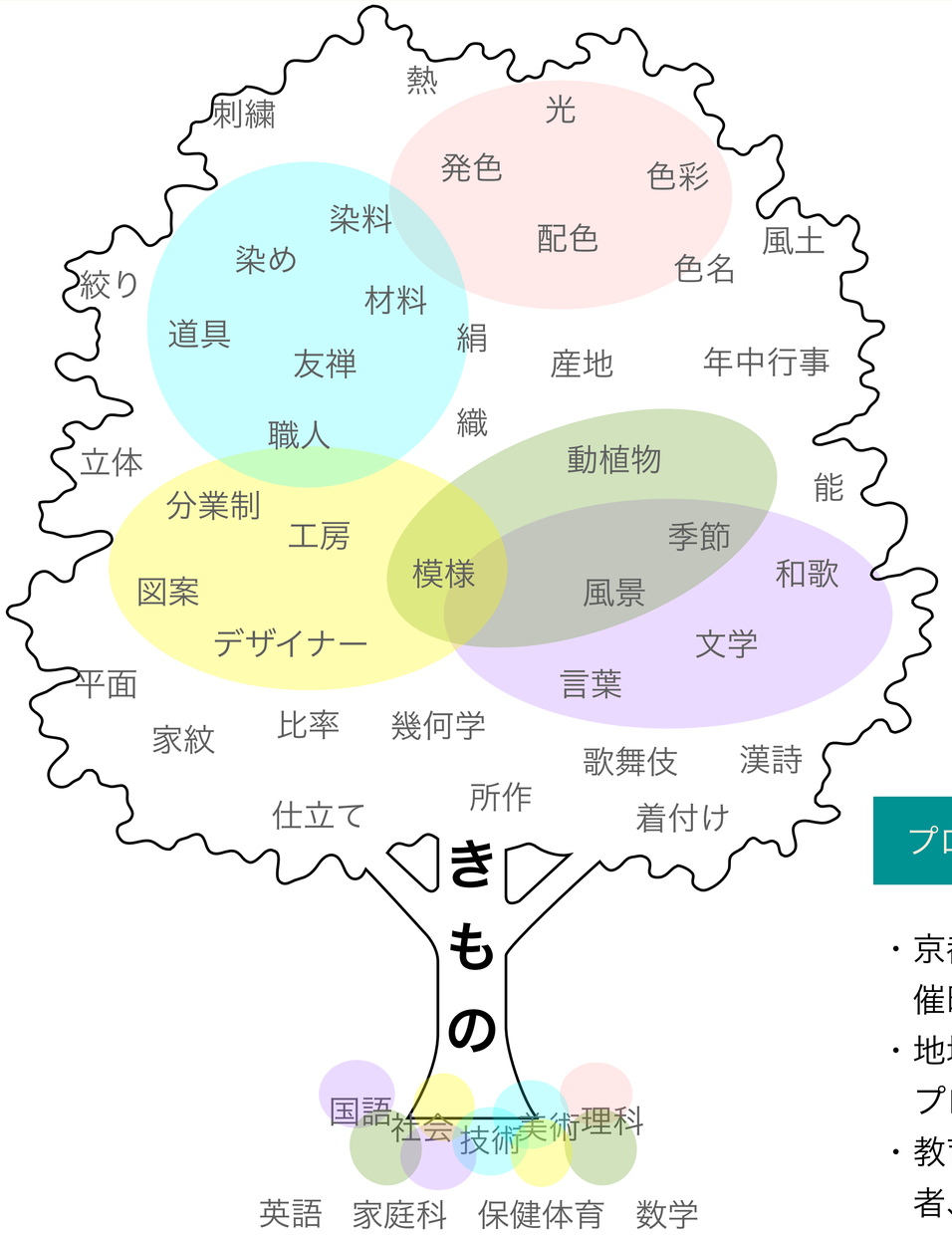
現在日本が目指しているSociety 5.0、すなわち創造社会では、技術をいかに課題解決・価値創造に活用するかを想像する力と、それを実現する創造力が必要とされており、その育成の一つの手法としてSTEAM教育をはじめとする教科等横断的な学習が推進されています。
「きもの」には長い歴史と文化、それを作り出すための多様な技術があり、それら要素の根底には様々な学問があります。
「きもの」に表されている色や模様、デザインや技術を、中学校で学ぶ国語、社会、理科、技術、美術と結びつけることで、「きものを科学する」をテーマに、子どもの想像性・創造性の育成を目指しています。

「きもの科学部」の概要

「きもの科学部」は、「きもの」を構成する様々な要素を学校の教科と結びつけ、「きもの」を科学（自然科学、社会科学、人文科学）的に探究するプログラムです。

各プログラムの中にも教科を横断した学びを取り入れ、「きもの」をいわゆる「伝統文化」や「伝統技術」といった枠組みの中で捉えるのではなく、5回のプログラムを通じて「きもの」を学際的に展開します。

学校で学ぶことが社会や産業、文化芸術とどのように関連しているかを知ることで、「きもの」だけでなく、日常生活における様々な事象を多角的に考える力を育み、創造力、発想力豊かな人材育成を目指します。



第1回「色ってなんで見えるの？」
理科・美術

第2回「職人技ってどんな技？」
美術・技術

第3回「きものに描かれているものは？①」
理科・社会

第4回「きものに描かれているものは？②」
国語・社会・美術

第5回「デザイナーって何をつくる人？」
美術

プログラム開発のポイント

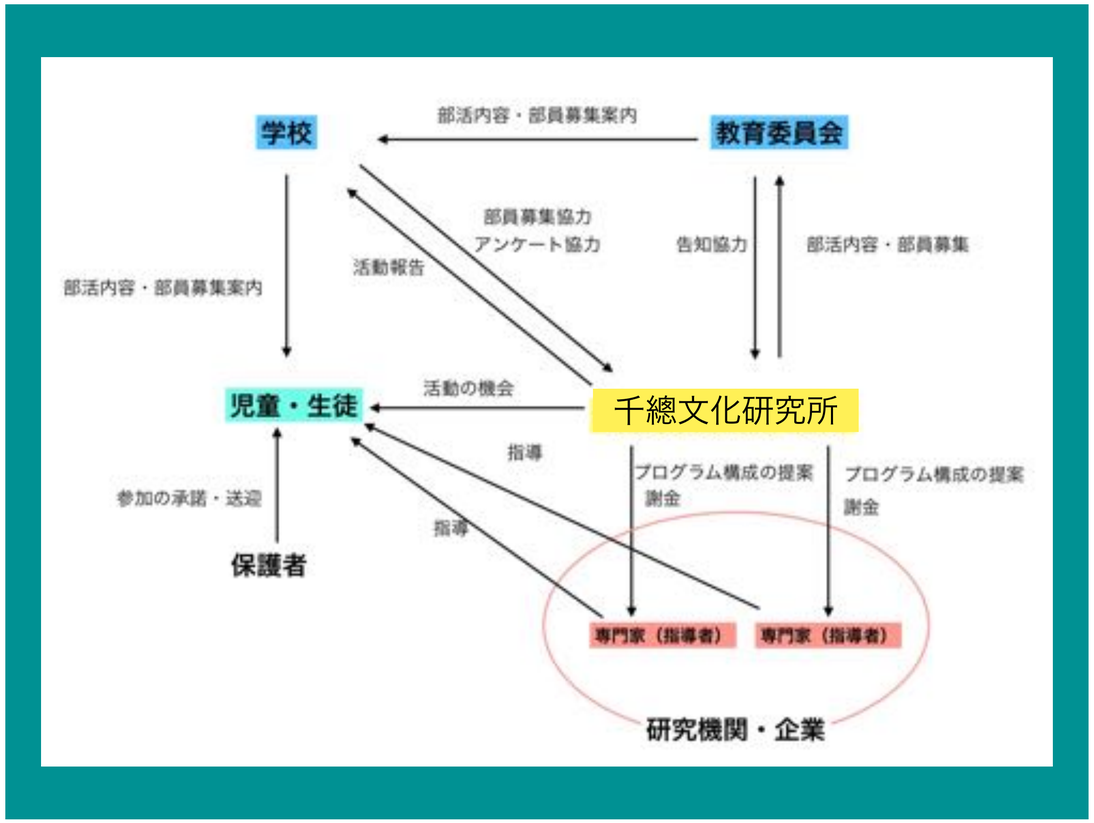
- 京都市教育委員会のご協力のもと、プログラムの開催時期や運営方法を検討
- 地域の学校関係者、参加者の保護者に参観いただきプログラムを検証
- 教育工学、化学、農学、文学の研究者、染色の技術者、デザイナーがプログラムの講師

「きもの科学部」の目標とプログラム手法

【プログラムの目標】「知覚」「思考」「実行」
STEP1(学びの楽しさ）：学ぶことの楽しさを体感する
STEP2(知覚）：伝統技術や伝統文化を題材に、自身の知覚により、新たな知識の統合の手がかりをつかむ
STEP3（思考）：伝統技術や伝統文化を多角的多面的に捉え、得た知識を関連づける力を身につけさせる
STEP4(実行）：伝統技術や伝統文化を自分ごととして捉え、その伝承もしくは新たな発展性のためのシーズを発見し、行動することができる

【プログラム手法】
本事業の教育プログラムでは，「知覚」から「思考」「実行」をしていくことを重要視しています。
すなわち，感覚器を通じて知覚情報を受容し，その内容を脳内の既存の知識と照合，意味づけを行う活動を保障しながら，問題解決や意志決定などの一定のタスクを目的に，批判的思考等を巡らせながら考え，実行する一連のプロセスを教育カリキュラムとして落とし込んでいます。
そのため、本プログラムにおいては専門家による講義・実演の前後2回に分けてワークショップを行い、
日常のさまざまな情報への感覚を磨き、自主的な学びの姿勢を育むことを目指します。

「きもの科学部」実施体制



企画運営：一般社団法人千總文化研究所
協力：京都市教育委員会
参加者の指導：教育工学、文学、生物学、化学、染織デザイン、染色技術の分野の専門家（６名）

対象者：京都市内の中学生
定員：20名程度
参加費：無料
実施回数：計５回（10月～12月の土曜日または日曜日）
実施時間：午前10時～正午（途中休憩あり）
開催場所：千總本社ビル（京都市中京区御倉町80 ）
参加者の移動手段：公共交通機関、または保護者による送迎

参加者の募集方法：京都市教育委員会より市内の中学校を訪問、チラシを配布、イベント情報誌およびウェブサイト「わくわくのトビラ」への掲載
＊全５回すべての参加を推奨の上、参加回の選択を自由とした。

講師

下郡啓夫　（担当：第1～５回のワークショップファシリテート）
2016年～函館工業高等専門学校教授
2021年～日本STEM教育学会教育研究会SIG研究代表
専門分野：教育工学、芸術実践論

小林淳哉　（担当：第1回「色ってなんで見えるの？」）
2012年～函館工業高等専門学校教授、触媒学会北海道地区代議員
専門分野：無機材料学、文化財

蒲池正太　（担当：第２回「職人技ってどんな技？」）
1999年～手描く京友禅、色写しー珍友禅の職人
専門分野：染色

木島温夫（担当：第３回「きものに描かれているものは？①」）
2009年～滋賀大学名誉教授、
専門分野：農学、園芸

横山恵理　（担当：第４回「きものに描かれているものは？②」）
2021年～大阪工業大学准教授
専門分野：日本文学

今井淳裕（担当：第５回「デザイナーって何をつくる人？」）
1997年株式会社千總入社、染織デザイン及びディレクション担当
専門分野：染織デザイン

時間割

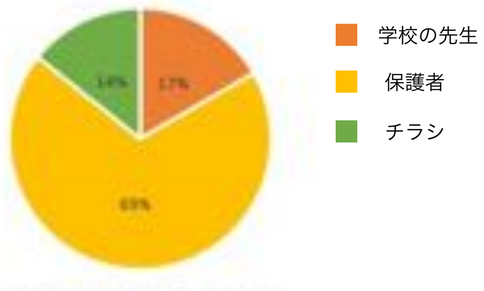
10:00~ワークショップ①
10:20頃～講義、実演
ー10分休憩ー
11:00頃～講義の続き、ワークショップ②
12:00頃　終了　振り返り（アンケートの記入）

参加者

【申し込み者数】16
【学年構成】1(7)年生：6名、2(8)年生:６名、3(9)年生:２名
【各回の参加者】第1回９名、第２回8名、第3回11名、第4回１０名、第5回10名

【所属中学校】
上京中学校
中京中学校
下京中学校
西京極中学校
京都市立西京高校附属中学校
京都御池中学校
二条中学校
京都教育大学附属小中学校
同志社中学校
花園中学校

【参加のきっかけ】



【参加の理由】
・楽しそうだった
・面白そうだった。デザインに興味があった
・千總のイベントだった
・西陣に住んでいて織物はよく見るけど、なかなか体験できないこと深い知識は知らなかったから興味を持った
・学校で染めについて習ったところだったので、興味があった
・着物ってどうしてあんな絵や彩色になるのかなと気になった
・名前から内容が想像できなくて楽しそうだと思った
・きものの色のぬり方がどうのようにして作られるのかが気になった
・着物と伝統文化に興味があった
・きもについて知りたいと思った
・行けるイベントは全部行きたいから
・母が茶道をしている時のきものがきれいだった。きもの x 科学のタイトルに興味を持った。
・文系が苦手な私が得意になれるチャンスかもと思った
・前に着物のデザインに着色をしたことがあったので、面白かった
・もともと着物やデザインが好きで、実際にデザイナーさんがどのようなことをしているのか見てみたかった

第1～５回のそれぞれの受講後に参加者へ実施したアンケート結果より、【参加のきっかけ】は有効回答数42から割合を算出、【参加の理由】は同じ文言を使用した回答を除いたものである

第１回「色ってなんで見えるの？」 2022年10月22日(土)

講師：　小林淳哉　下郡啓夫

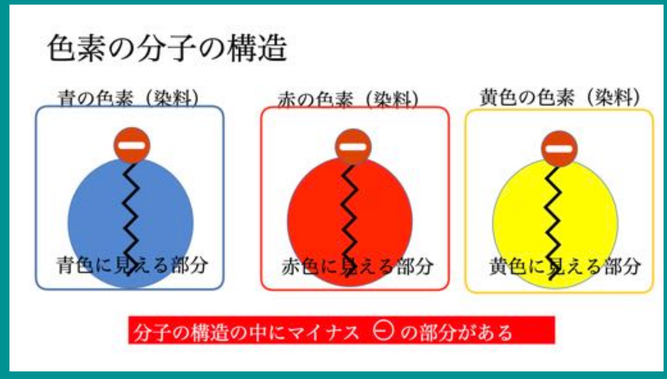
背景

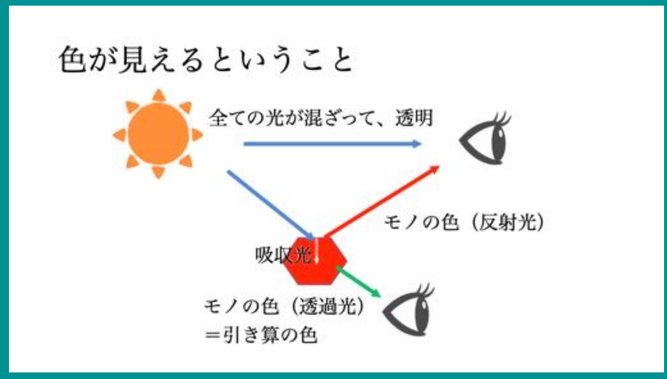
「色」は身の回りに溢れていますが、その色がどのように作られ、どのように意図されているのか、日常生活の中で意識して考えることは少ないでしょう。
「きもの」には様々な「色」が用いられ、その使い方、組み合わせは熟慮され、そして「色」を最大限に美しく表すために、染色の技法や道具、材料が使い分けられています。

ねらいと内容

染色の原理は，イオン同士が引きつけ合う現象です。「生地が染料を引き付ける強さ」「生地と染料の結びつきの強さ」が染まりやすさ，脱色のしにくさであることに気づかせ，染料と生地の引きつけ合う力が弱ければ豆汁やふのりといった「生地と染料をつなぐ役目」が重要であることついても分かるようになります。 染めの手法や材料の意図を理解するために中学の理科が関係していたんだ？と今後の理科学習への学びのモチベーションにもつながります。

　また、「色が見える」のは夕焼けが赤いのと同じく中学校の理科で学ぶ光の吸収、すなわち「ある色（波長）の光を吸収した後の引き算の色を見ている」ことを説明します。そして，色には「暖色」「寒色」があり，落ち着きを与える色の組み合わせ，情熱的な印象を与える色の組み合わせなどあり，そこに使われる色の組み合わせもまた大切であると説明します。基本的な色の組み合わせを考えるための「色相環」について説明し，色の組み合わせが与える印象について自分でも考えられるようになることを目指します。





小林先生のスライドより

第１回「色ってなんで見えるの？」

講師：　小林淳哉　下郡啓夫

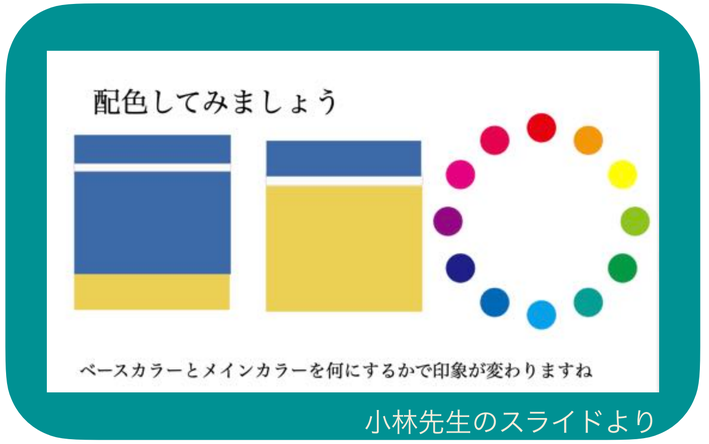
ワークショップ①
ー「きもの」の色を観察しようー

Visible Thinkingルーチン「Color, Shape Lines」を用いて「紫絽地美保の松原風物紋様振袖」と「疋田染分綸子地松竹梅文様間着」を観察します。２つの着物は同じような紅色、葡萄色、納戸色がメインの色彩として使われていますが、生地の織組織（絽と綸子）や染め方（引き染と浸染）が異なります。織組織が異なると光の反射が違い、染め方が異なれば染料の生地への浸透度が異なります。色の見え方、印象の違いを観察し、発表します。

下郡先生のスライドより

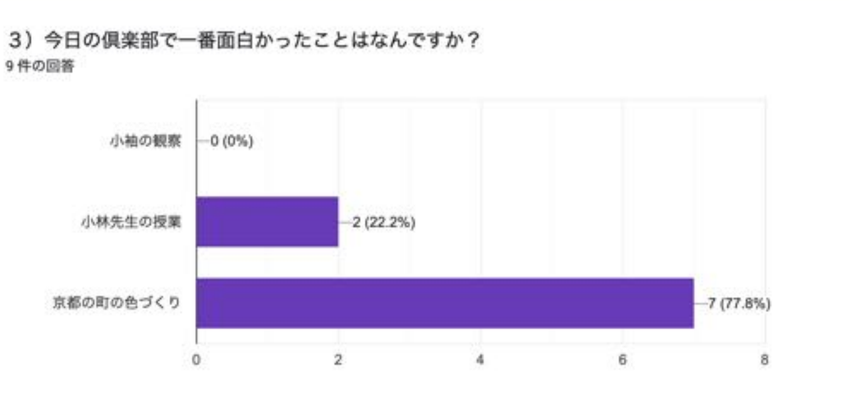
ワークショップ②
ー「京都」を3色で表現しようー

自分が好きな場所、思い出に残る出来事を景色と共に思い出しながら、京都の四季や町並みを表現するベース色を考えて、配色カードの中から色を探します。そしてその景色を引き立てるあるいは、そこに映える何かの色を探します。さらに色のバランスをとる３色目を配色の基本も考えながら選んで、伝えたい「京都」を文章で表現します。作った後は、みんなの前で発表します。



小林先生のスライドより

第１回　参加者の振り返り



4）3）の理由を教えてください

・難しい内容も多く、頭を使う場面もありましたが、”なるほど”と思いことも多く、ためになったと思ったから
・色を選んで組み合わせて行くのが楽しかった
・写真じゃなくても、３色だけでその景色を表現できたことが面白かった。同じぎおん祭でも人によって表し方が全然ちがって楽しかった。
・配色カードを使い、いつもは使えないぐらいのたくさんの色の中考える事が出来て楽しかったから。
・他の人の作品を見ていて置き方や色の組み合わせだけで雰囲気が違うように見えて面白かったから。
・自分がよく通る道を色であらわすのは面白かったです。「そういや、こんな色があるなー」とか「こんなイメージかなー」というのを色々考えれました。オレンジがもっと少なくてもパリッとしても良かったかなと思います。
・色って絵の具でうまく調整してやっているんだと思っていたのですが、そうじゃなくてその糸の性によって表現している色が違うのだとわかったからです
・どんな色をどんな配色でおけばいいのかを考えるのが楽しかったから

7）特にむずかしかったことがあれば詳しく教えてください。

・イオンの話
・たくさんある色の中から自分が思う色に近いものを見つけること
・色が染まる時のプラスとマイナスの話が難しかった。
・ぱっと見ただけで京都らしさを表すのが難しかったです。
・色が見えるしくみが少し分かりにくかった。
・色の染まり方の違いが少し難しかった

8）もっと知りたいと思ったことがあれば、詳しく教えてください。

・デザインの仕方（何色ぐらいの色を使うか、どの色とどの色を使ったら目立つかなど）がもっと興味がある。
・含まれる元素（？）によって見える色が違うと言われていたが、何が違うのか詳しく知りたい。
・色の作り方を知りたいです。
・がんりょうの元って何ですか？
・私は色の配色についてもっと詳しく知りたいです。理由は、私はあまり色の興味はなく過ごしてきたけれども、色の組み合わせ方や配色の違いについて知りたいと思ったから。

第2回「職人技ってどんな技？」 2022年11月5日(土)

講師：蒲池正太　下郡啓夫

背景

「職人技」と聞くと、「なんとなくすごい」「熟練されたもの」、といった印象を持つ方が多いのではないでしょうか。それでは、具体的に何が「技」で、何に熟練を要するのでしょうか？
職人は、単純に細かな作業をするために手先が器用というだけではありません。
「技」の背景には、たくさんの思考と創造があります。

ねらいと内容

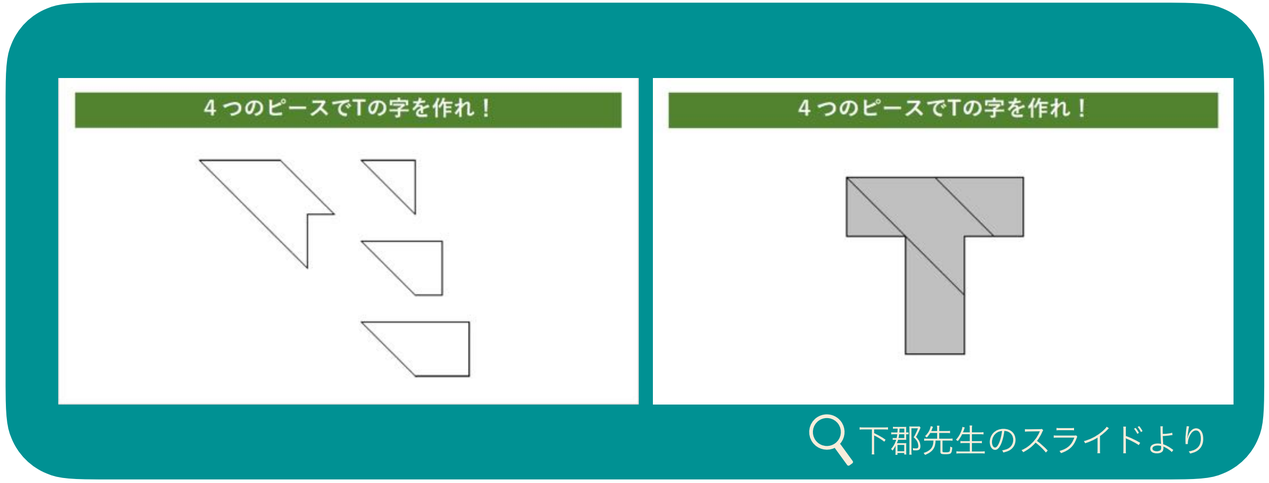
友禅染と呼ばれる染色技法において、色挿しと呼ばれる工程があります。模様の輪郭を糊で防染し、その中に色を挿す作業です。色挿しの職人は、企画担当者が考えた着物の配色を元に、全体と部分とのバンランスを見極め、どの部分にどの色を用いるのかを決めます。そして使用する色を一色ごとに染料を混ぜ合わせて生み出します。
　色をつくる時、染める時にどのようなことを考えているか、どんなことに注意しているか、色の組み合わせや作るときの段取りなどを実演を交えて説明します。職人がどのようなことを考え、思い描く色や形を手作業で表現しているのかを学びます。
　職人の実演の観察と職人との対話の後、職人と同じ道具を用いて色挿しの工程を体験します。絹や染料、道具など素材と向き合い、思い通りに操ること、思い描いた色を再現することの難しさを経験することで、職人の「技」とは何かを考えるよう促します。

第2回「職人技ってどんな技？」

講師：蒲池正太　下郡啓夫

ワークショップ①
ー部分から全体を考えるー

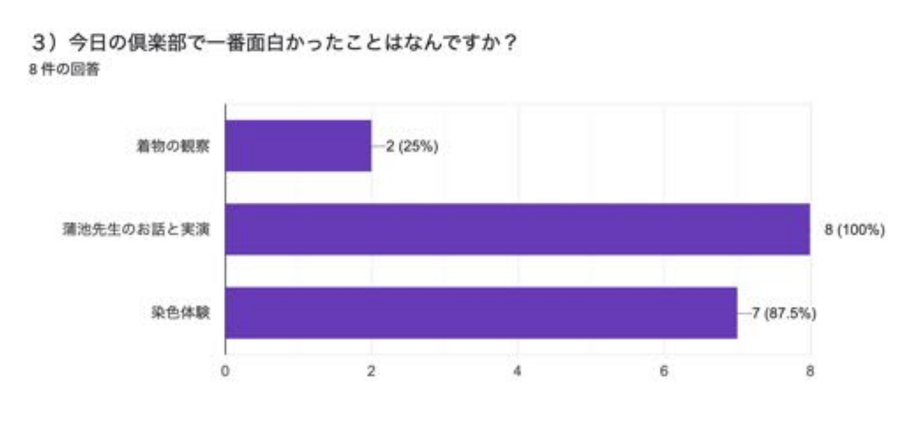
大小さまざまな形をした４つのピースを用いて、Tの字を作ります。ピースは紙製で、切り抜かれた状態で配布されます。
バラバラになったピースから、ピースの特徴、それぞれのつながりを観察し、全体を組み立てます。



ワークショップ②
ー染色の世界を探求しようー

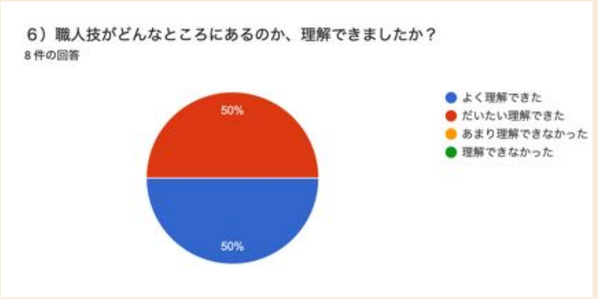
抽象的な図柄を描かれた絹の生地に、４色の染料から自由に色を作り、図柄に色を挿します。
材料と道具は、職人と同じものを使用します。

第２回　参加者の振り返り



4）3）の理由を教えてください

・花の種類によって染め方を変えるなど、染め方の工夫が見れたから
・なかなか見たり聞いたいりすることはできないから
・きものの色のぬり方が思っていた以上難しいやり方で塗ったら一度もかわかさづぬるのだとわかって面白いと感じたためです。
・とても難しいところもありましたが、貴重な体験ができたから
・きものを服としての形でなく、布の形で着色していることに驚きました。染料は工夫のしがいがあって面白いですね
・地道に進んでいく作業でとっても細かくて飽きそうな作業をふつうにこなしていたのがすごかった。難しかったけど色が広がっていって楽しかったから。
・いろんな疑問を解決でき、見ているのと体験とどちらも新しい発見があって良かったから
・着物があんなに丁寧に作られていると知って衝撃だったから。染色体験は絵の具とはまた違う良さを持っていて楽しかった。



7）特にむずかしかったことがあれば詳しく教えてください

・きめられた型に色を自分で考えながら塗るのが難しかったです
・どうぼかしたら良いのかや、どううまく白を利用したら良いのかが少し難しかったです。
・自分が大雑把のところがあるので、はみ出したりして集中力も必要だったので、いろ染めは特に苦戦しました
・実際やるとスイスイぬれる絵の具とは違って、最初の一筆にインク？が多く集まって均等にぬりにくかった。
・染色体験がうまく思うようにかけられてないことがあって難しかった。

8）もっと知りたいと思ったことがあれば、詳しく教えてください

・色のグラデーションのコツなどがあれば教えて欲しいです
・染料に何をつかっているのか
・色と色を混ぜる時の注意点やおすすめがどうしたら良いのか知りたいです。
・植物１つ１つのぬり方の工夫
・染色するときに間違えて色をはみ出してぬったりすることはないのか知りたかったです。もし間違えたら、どうやって直すのかも知りたかったです。

第３回「きものに描かれているものは？①」 2022年11月20日(日)

講師：木島温夫　下郡啓夫

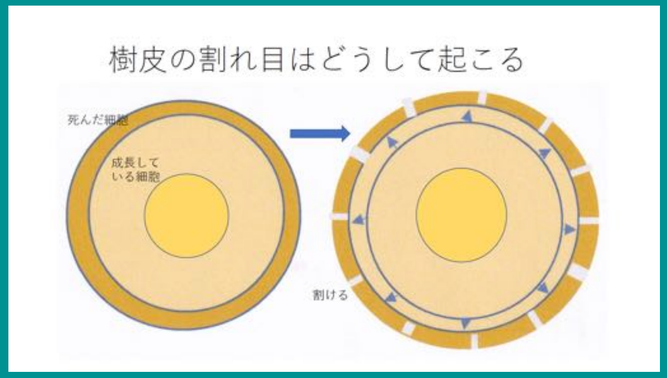
背景

　きものには、古来多くの植物が模様として描かれてきました。また色の名前や色の組み合わせ方にも植物の名前が使われてきました。そこには、厳しい自然環境の中でも逞しく美しくある生命力への畏敬や、深い観察に基づく愛着が込められています。

　自然と直接的な関わりが少ない生活様式が広がる現代において、私たちは植物のことをどれほど知っているでしょうか？

ねらいと内容

着物の模様に多く見られる、松、桜、柳、桐、葵、藤袴、女郎花などの理科的な特徴や植物としての生命力について説明します。
さらに、日本人にとって昔から植物は身近な存在であり、庶民も観賞用に植物を栽培していたが、海外では植物を鑑賞するのは王侯貴族だけであったことや、戦時下で植物鑑賞が禁止された歴史があることなどを解説し、植物と文化、社会との関係性へ気づきを与えます。
また文化人の和歌などを交えて、人にとって植物は大切な存在であることなどを解説します。
植物を実際に観察することで、植物の特徴への気づきを促した上で、日本人の歴史と社会と植物の関係性や、着物に見られる植物の特性を知り、生きる力や自然から学びを得て共生することへ思考力、判断力を育みます。



木島先生のスライドより

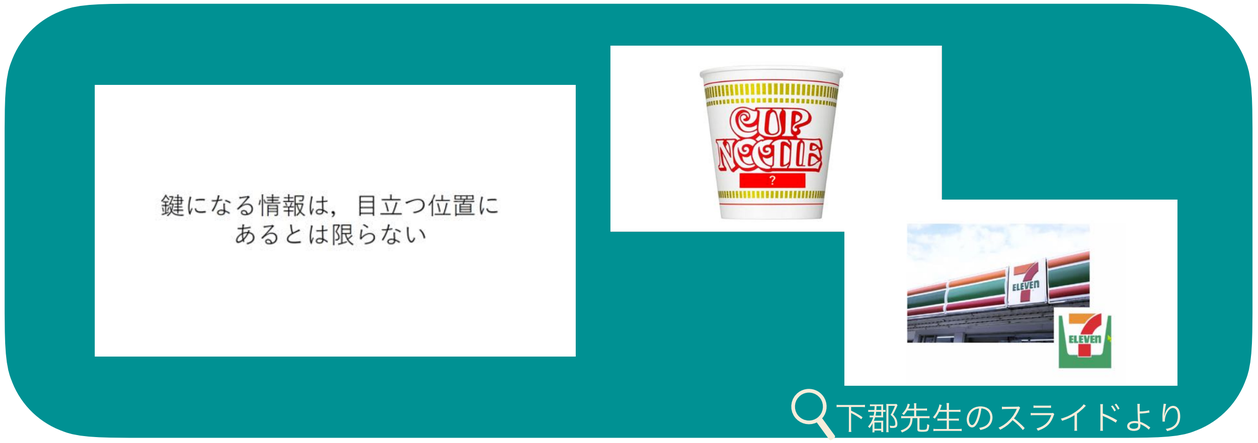
第３回「きものに描かれているものは？①」

講師：木島温夫　下郡啓夫

ワークショップ①

ー見ているようで、見ていない？ー

事前課題として、身の回りにある植物の観察を行い、写真撮影をします。植物の写真持参し、グループ内で共有して疑問に思ったことなどを話します。
さらに、コンビニエンスストアや食品に用いられている色や文字などを例に、何気なく目にするものをどれくらい正確に記憶しているか、問いかけます。



ワークショップ②

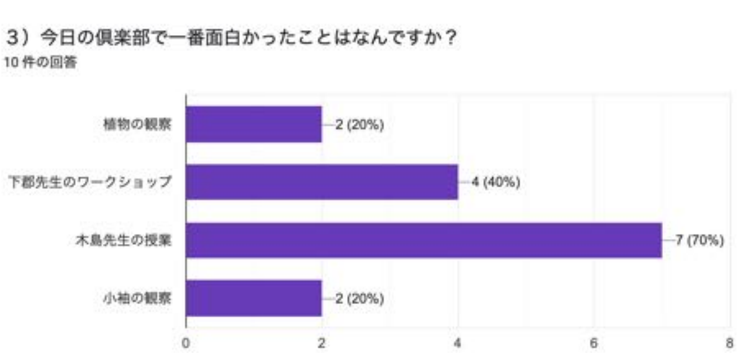
ーきものに描かれている植物は？ー

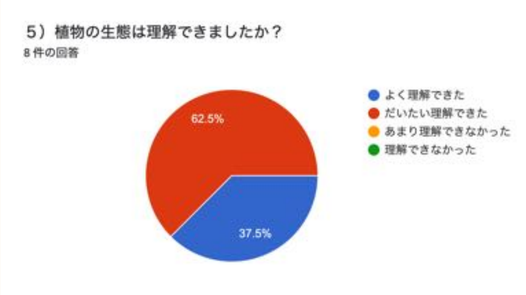
江戸時代に作られた「琴に枝垂れ柳桜模様小袖」「芦に鷺流水と蛇籠模様小袖」「宝袋亀甲模様夜着」の３点を観察します。どんなものが描かれているか、どうして描かれているのか、どんなストーリーがあるのか、を考えます。

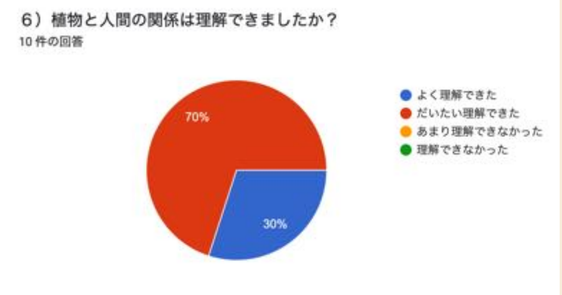
琴に枝垂れ柳桜模様小袖（部分）
千總蔵

芦に鷺流水と蛇籠模様小袖（部分）
千總蔵

第３回　参加者の振り返り







４）３）の理由を教えてください

・普段、小袖を見る機会がないから
・今まで知らなかったことが色々知れた！植物って実はすごくかしこいんだなあと思いました。
・普段見ていてわかっていると思っていたものが実際そうではなくて、生活していく上でもっといろんなことに興味を持ち、細かいところも見てみたいと感じることができたから
・いろんな植物について詳しく知ることができたから。植物と着物の柄の関係を知れた。
・植物についてより詳しくしれ、着物に描かれているものとの関連が理解できたから。
・普段よく見る看板が詳しく知ってそうで、実はまったく知らなかった。
・植物も地域によって姿・形が違うことが分かった。
・植物の意外な生態が分かった。
・パッとみてはわからないけど奥深くみていくとたくさんのことがわかる。
・ふだん、植物には花言葉がありそれは花だけだと思っていたのですが、実は葉にもそれはあるというのを知れたから
・今までボンヤリとしか知らないものがハッキリと分かった
・身近なことで細かいことを見ているつもりで見ていないことを楽しく学べたから。他にもたくさんのことをよく観察して見落としがないようにしたい。

７）特にむずかしかったことがあれば詳しく教えてください

・花の構造
・植物の仕組みが複雑で難しかった

８）もっと知りたいと思ったことがあれば、詳しく教えてください

・六角形が一番効率的だとわかったが、八角形以上だとどうなるのか気になった
・花言葉とか、日本での植物への関係みたいなものってあるんですか？
・今日課題としてもってきた写真で疑問に思ったことについて知りたいので、調べてみたいと思いました。
・きものによく描かれている柄や縁起の良い柄について詳しく知りたい
・着物に描かれている柄の意味やそれを描く上での色使いについて知りたい
・着物から世界を広げて、日本の和と伝統文化と着物のむすびつき
・植物と着物の関わりについてもっと知りたい

第４回「きものに描かれているものは？②」 2022年12月4日(日)

講師：横山恵理　下郡啓夫

背景

きものは、文学、能楽、和歌や漢詩といった文芸を主題とした模様が描かれてきました。描かれたモチーフから物語を推測したり、和歌と植物を組み合わせて季節を寿ぐ、といった具合に、きものは着用するだけでなく鑑賞の対象としても楽しまれてきました。

ねらいと内容

小袖を題材に文学と模様の関係を説明し、日本の文化芸術では、文学は文学、絵画は絵画のように切り分けられていないこと、それが様々な鑑賞の楽しみや解釈の幅を与えるものであることに、小袖の模様の解説を交えながら気づかせます。その上で、日本の伝統文化（古典）において和歌の役割は、教養であり、贈り物やコミュニケーションツールだったことを、『源氏物語』の「若紫」や紀友則の和歌を例に解説します。現代のコミュニケーションツール（LINEやスタンプ）との共通点や違い、言葉と社会の関係性、中学で学ぶ古典文学の世界と自分との繋がりに気づかせます。

文学や小袖に表現された和歌の内容を吟味したり検討することで、言葉の表現力と、社会とのつながりを学びます。

「掛詞」「見立て」「本歌取り」「折句」など、和歌のルールを解説し、和歌を創作するワークショップを行います。他者の考えと自分の考えを踏まえて，自分で新しい考えを生み出す創造力を育みます。また、情感豊かな和歌の世界、小袖の世界を題材とすることで、参加者が自分の思いや考えを広げたり深めたりすることを目指します。

横山先生のスライドより

第４回「きものに描かれているものは？②」

講師：横山恵理　下郡啓夫

ワークショップ①

ーモチーフが語るものは？ー

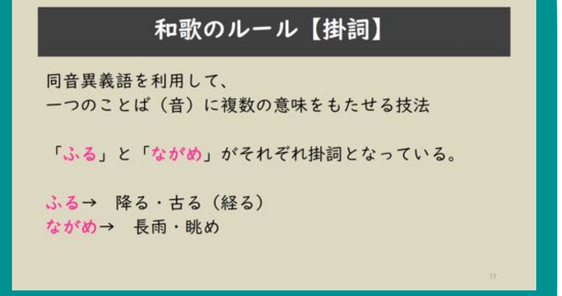
Visible Thinkingのルーチン「See-think wonder」を用いて、文学や和歌が主題となっている江戸時代のきものを観察します。風景の中に物語暗示するモチーフが散りばめられたきものから、見えるもの、そこから考えられることに、想像力を働かせます。グループに分かれて６点のきものを観察し、観察結果をグループごとにに発表します。

萩野に鹿模様振袖
千總蔵

ワークショップ②

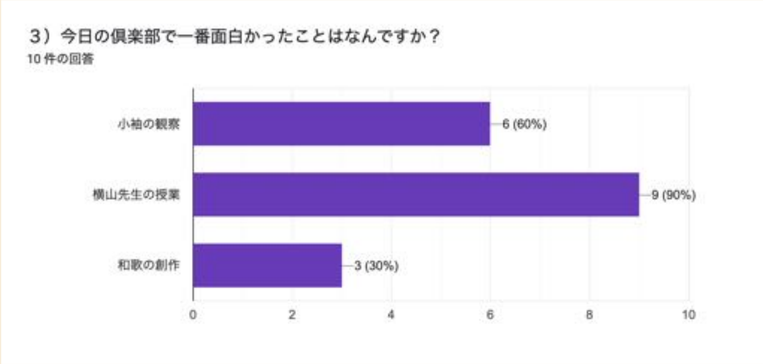
ー自分で和歌を作って自分の思いを伝えてみようー

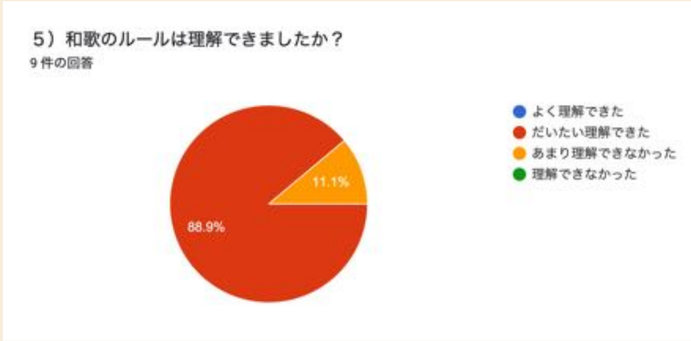
自分の好きな場所、遠くにいて会えない人、誰かとの思い出や和歌の主題を自分ごとに置き換えて、自分の言葉で表現します。



横山先生のスライドより

第４回　参加者の振り返り





４）３）の理由を教えてください

・色々な小袖を見て、何が描かれているのかを考えるのが楽しかったから
・ふだんパッと見ただけの情報で物事を決めているけど、よく見てみると新しいことにも気づき、そこから新たな疑問が出てくるとわかりました。また和歌はこういう構成があってできているのだと知れたから。
・まだ知らないことがたくさんあるから
・いろんなお話に因む着物に絵が描かれていて面白かった。しっかり考えられて作られているんだなと思って感心した。
・着物が物語を表しているというところがとても面白かったし、和歌も真剣に作ることが楽しかった。
・自分が今までわからなかったことについて、先生の授業を受けて分かったから
・自分で見るときにはあまり気にならないようなことも、じっくり観察して意味を知ることにより、考えるきっかけになりとても面白かったからです
・たくさんのデザインがあり、それに込められた意味があることが分かったから。本歌取りが昔と今ではパクリだと思ってしまい、価値観が違うのだと思った
・歴史的なことにもふれながら、和歌について詳しく知れたから
・観察して自分の意見を導けたから。それは大ハズレだったけど、物語をモチーフにしているのがすごいと思った。

７）特にむずかしかったことがあれば詳しく教えてください

・和歌を作ること
・自分なりの和歌を考えることが難しかったです。
・和歌が気持ちも気持ちを表す風景も31音の中に入れないといけないところが難しかった
・自分と向き合うこと

８）もっと知りたいと思ったことがあれば、詳しく教えてください

・和歌の他のルール
・和歌の作り方をもっと知りたい
・和歌の歴史
・着物の構成や絵は、複数の人が関わってできているのかが知りたいと思いました。
・詳しい和歌のことを調べたいと思いました。

第５回「デザイナーって何をつくる人？」 2022年12月17日(土)

講師：今井淳裕　下郡啓夫

背景

「きもの」のデザインは、「図案」と呼ばれる工程から始まります。「図案」は着物の設計図であり、企画者のコンセプトを再現します。
「デザインする」とは、何かを描くことに留まらず、アイディアを組み立て、可視化し、人に伝える仕事です。

ねらいと内容

「きもの」のデザイナーの仕事とは、具体的にどのような仕事で、どのようなこと考え、また何を大切にしているか、「デザイナー」と「アーティスト」の違いについても触れながら、説明します。

「きもの」の図案と染織品として完成した「きもの」を観察しながら、着物のコンセプトは着用者の年代や着用シーンを想定して考えられることや、着物を作るにはチームワークが欠かせないこと、たくさんの職人が関わっていることを、解説します。
「きもの」の製作工程の動画の視聴や図案の実演を行い、参加者はデザイナーとの対話を通して、「ものづくり」がどのように成り立っているのかを学びます。デザインすることは、きものをはじめファッションやアートの世界だけでなく、社会に存在する様々な仕事にとって必要とされる考え方でもあることに触れます。
　最後に、きもののデザイン（コンセプトから図案まで）の製作に取り組み、デザイナーの仕事と共に、第１～４回までの学びがどのように「きもの」を形づくるものなのかへの気づきを促します。

今井先生のスライドより

第５回「デザイナーって何をつくる人？」

講師：今井淳裕　下郡啓夫

ワークショップ①

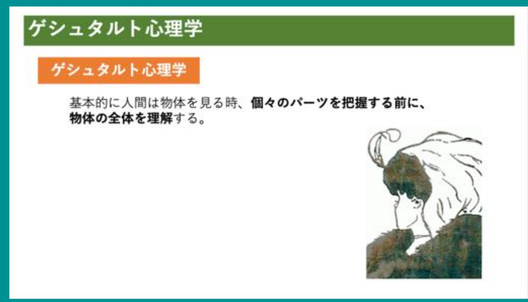
ーが見える？何を感じる？ー

さまざまな絵画作品や図形を例に、そこに描かれているものと、そこから受ける印象を考えます。

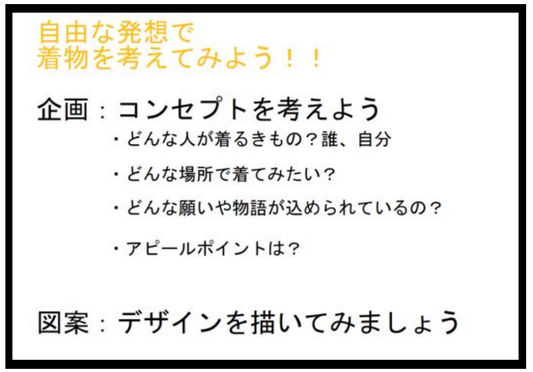
ワークショップ②

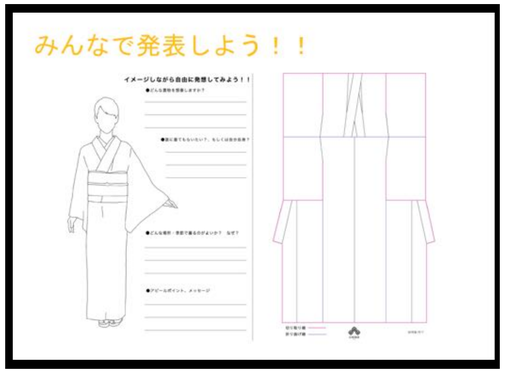
ーきもののデザインを作ってみようー

どんな場所に、どんな気分で着ていくか、コンセプトを自分で考えて、きものデザインにチャレンジします。
実際に制作現場で使用されている着物の図案用の用紙に、鉛筆や色鉛筆を用いて描いてもらいます。作った後は、みんなの前で発表します。



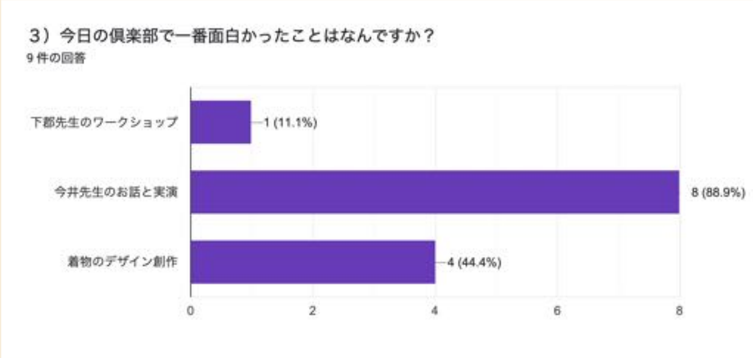
下郡先生のスライドより

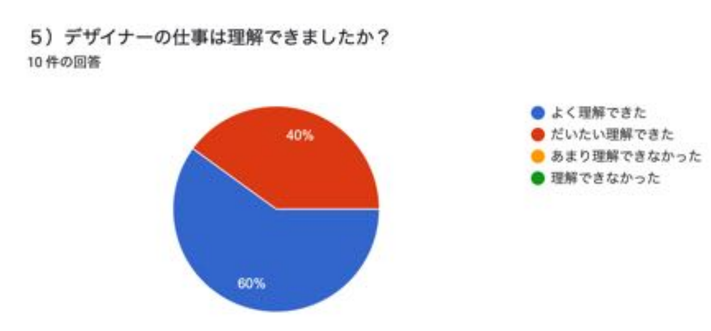




今井先生のワークシート

第５回　参加者の振り返り





４）３）の理由を教えてください

・一つの着物を作るには様々な人が団結する。
・デザイナーは単にデザインするのではなく、もの一つ一つの特徴を捉えていることが分かった
・デザインの話が面白かったし、実演は「サッサッ」と綺麗に花などを描いていて印象に残ったから
・普段できないこと、見ることができないことをできて良かったのと知れて面白さを知れたから
・自分で考えながら着物をデザインするのが楽しかったから
・知らなかったことが多かったから。チームワークが大切だと分かった
・どのような思いを込めてお仕事をしているのか、またどのようにデザインをしているのかが知れて面白かったからです。
・自分の知らない事ばかりで面白かったから
・着物には様々な作り手、デザイナーの思いが込められていて、全体をパッとみただけでは分からないことがたくさんあると知れたから。

７）特にむずかしかったことがあれば詳しく教えてください

・自分で着物のデザインをすること
・デザインを描くことが、なかなか良いアイデアが思いつかない
・着物のデザイン創作で思ったように絵が描けなくて難しかった
・誰に、どんな、を考えながら着物をデザインすること
・着物を着た時の様子から広げた時の柄がどうなるのかを頭の中で転換することが難しかったです。

８）もっと知りたいと思ったことがあれば、詳しく教えてください

・デザイナーの仕事について
・どうやったら上手にデザインの絵がかけるのか知りたい
・花言葉を知ってから、着物のデザインを描きたいと思った
・（少し違うかもしれませんが）皆さんは、なぜこの世界で生きていこうと思われたのですか？
・着物を作るときにどんな人が関わっているのかや、どのようなデザインの構図があるのかをもっと知りたいです。

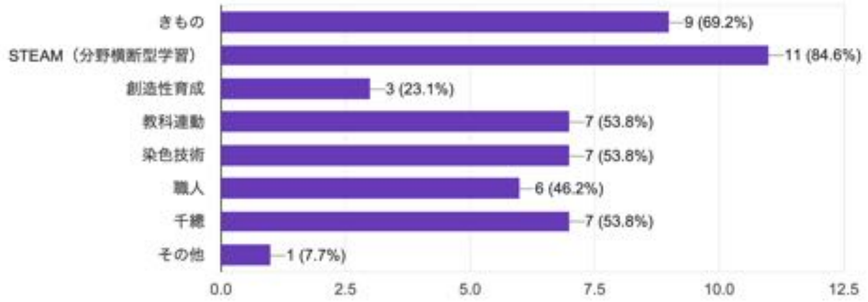
学校関係者のアンケート回答

実施方法：毎回同じ質問のアンケートを配布し、終了時に記入
総回答数：13
回答者の所属：上京中学校、中京中学校、下京中学校、銅駝美術工芸高校
回答者の担当教科：英語、美術、理科、保健体育、国語

アンケート項目
１）「きもの科学部」に関心を持ったキーワードを教えてください（選択式・複数回答可）
２）本日の「きもの科学部」は、学校の教科に結びつける内容としていかがでしたか？（選択式）
３）２）でご回答いただいた理由について教えてください。（記述式）
４）本プログラムの講義やワークショップ内容がパッケージで提供されるとしたら、授業などで活用したいと考えますか？（選択式）
５）４）でご回答いただいた理由や授業で活用するとした場合の課題や要望があればお聞かせください。（記述式）
６）そのほか、ご要望、ご意見などありましたら、今後の改善などに活かしていきたいと思いますので、ぜひお聞かせください。（記述式）

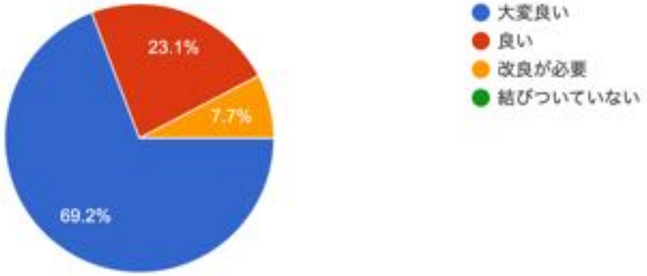
1）「きもの科学部」に関心を持たれたキーワードを教えてください

13 件の回答



2）　今日の「きもの科学部」は学校の教科に結びつける内容としていかがでしたか？

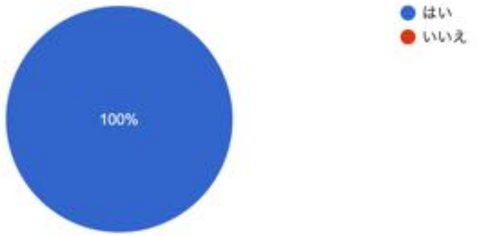
13 件の回答



3）2）で回答いただいた理由を教えてください

・化学・国語（言語・表現）とのカリ・マネで美術、色彩について学べる内容でわかりやすかった。科学的な見地による説明で深まった。
・色の見える仕組みについて学んだ後、色を使って制作＆コンセプトのSTEAMで深い学びにつながっていると思いました。
・理科と美術の授業の関連がわかり、その関連を生活に活かす工夫が図られていた
・きものを通じて多様なつながりや多角的。横断的な創造（つながり）に結びつけることができる。
・発想・構想のヒントや取り組みに向かう姿勢・考え方の参考になり今後の授業に生かせるように思いました。
・文学が文学で終わらないこと、また文学（古典）に参加することの視点が得られる。
　読むことが他のものの理解につながることを知ると普段の読書体験が広がると思います。
・see-think-wonderの順で表現されているものを読み解くこと、それを他の人と共有することで新たな気づきが得られる。着物の見方、見え方が広がり今後もこれを手がかりに古典などの文学や絵画をもっと知りたい、あるいは表現したいといった次のステップに繋がる。和歌の実作、没入も面白いと思いました（生徒は難儀していましたが、BGMや源氏香など別の鑑賞を刺激としても面白いと思いました。）
・デザイナーの方からお話が聞けること・デザインのプロセスが授業の制作のプロセスと同じで参考になる。
・ものの見方・視点というテーマを捉えた場合、すべての学習に通じる内容である。
・内容が盛りだくさんで１回分としては多いのではないかと思います。
・内容的には大変面白く子ども達が興味を持つと思います。準備物や設備・費用面など学校での教科ないで行うにはいろいろな課題が課題があると思います。
・大人数で取り組むのには教わったことと同じような形ではできない部分もありますが、
　中味や材料を替えながら伝統工芸（きもの、染め、デザインなど）に親しむことができると感じるからです。
・教科の中にということはカリキュラム全体を計画する時にかなりの打ち合わせが必要かと思います。
　また授業となると多くの生徒が対象となるし、設備などの条件も整えていく必要があると思います。

4）本プログラムの講義やワークショップ内容がパッケージとして提供されるとしたら、授業などで活用したいと考えますか？
12件の回答



5）4）でご回答いただいた理由や授業で活用するとした場合の改善点や要望があればお聞かせください

・自身で行うことはできないが担当教科に提案したい
・色彩の授業の導入で活用したいです
・学校の設備面などの状況が整っている必要があるかと思いますが、どのような環境でも可能なパッケージであれば良いと思います。
　また年間カリキュラムを決めるのが4月の早い時期なので打ち合わせなどが早くに実施される必要があるとかと思います。
・美術・社会・理科・歴史の教科のつながりや個人の創造せや思考など授業においても大きな価値がある
・授業の中で取り組もうと思っていても専門的なことの道具や技術など新たに学び自分のものとして教えるのに教材研究を一緒にさせていただけると大変ありがたいく思います。
・分量や回数が選べる形なら導入しやすいと思います。
・事前課題や当日のワークシートの工夫、ICT機器の活用など、中学校の実情に合った形になるとなおありがたいと思います。
・アラカルト方式でも利用できると導入のハードルが下がると思います。
・着物の図をデータ（拡大図でも）で配り、よく観察できるようにする。
　作品数を絞ることができるので、文学の内容も数を減らして、この意匠と文学の内容がどうつながっているのかを考察する。
　最後は、自分で文学をモチーフに着物のデザインを考えるのも楽しそうです。
・実物を見て想像力が広がる。京都なので家庭に素晴らしいものが眠っていることも考えると、歴史や地域について再認識することに繋がる。
　文学だけでなく、絵画や音楽、茶碗などの陶磁器などのコラボも面白そう。
・取り組みの中で大切にしている発想や構造が段階で広いとらえ方（考え方）ができるような活動方法が見えるものがありましたらありがたく思います。（ワークシートや資料など）
・美術の学びと結びつける、他教科（花の構造は理科、衣は家庭科、伝統文化は総合学習など）との学びを結びつける。
・端末を持っているので、平面の図案が立体となって見えるようになる、一つの図柄をコピーして構成できるなど。
・短時間で体験や達成感が得られるようなものであれば良いと思います。また講師の方やサポートの方などの人数なども多くの打ち合わせが必要かと思います。
・授業担当者が引き受けてくれれば可能

６）そのほか、ご意見、ご要望などありましたら、今後の改善などに活かしていきたいと思いますので、ぜひお聞かせください。

・この年になってからですが、今までの学びが結びつき、大変わかりやすく楽しい講義でした。
　こうしたカリ・マネの授業こそ、今の子どもたちに提供していかなければいけないと思っています。
　教師の協働も体制づくりをしたいですが、外部講師をお迎えして導入の授業をするというのも一つのやり方かと思いました。
・とても勉強になりました。ありがとうございました。
・素晴らしい環境と有形・無形の文化財（伝統文化）を学べる機会を与えていただきましてありがとうございました。素晴らしい、内容、企画と運営をありがとうございました。
・週１回の１～２時間で完結できることはないでしょうが、中学校での取り組みと義務教育で３年間で美術を学ぶことがなくなる生徒にも今後の生活に生かせるものが何かできればと考えています。
・教科横断で色々考えを広げ深めさせられる良い企画だと思います。京都で行う時と、他の都市で行う時で内容や説明にカスタマイズを加えた方が良い部分もあるかもしれません。ありがとうございました。
・古典とは、知識を前提としていてだからとっつきにくということが自分の反省としてよくわかりました。
　例えば今回の着物には多くの花が描かれていますが、何の花かを知らないと季節がわからないように、多くの”前提”となるものが必要です。
　これらの知識をどこまで必要として展開するか、教員がはっきりさせた上で資料を提示することの重要性に改めて気づきました。
　入り口から見て右の壁が広く白いのでスライドをそこに大きく映してもよかったと思います。今日はありがとうございました。とてもたのしく聞かせていただきました。
・本日も楽しく拝見しました。ありがとうございました。
・ワークシートに「作品に込めた思い」が場面、いつ、どこで、誰が、色、形、構図、平面→立体、についてまとめられていれば授業で評価も可能となる。
・構図やデザインについてデザイナーの方からコメントがもらえると生徒の主体性が伸びると思います。
・男性の着物としてモチーフを自由にすれば男子生徒も取り組みやすい。花の女性の着物というイメージが大きいと男子は、、、。
・足しすぎない、引いて各自で想像することがデザインに込められていると面白いと思います。
・今回は、普段見られないような作品や技術を見せていただける機会を作っていただき、子ども達は貴重な経験だったと思います。
　今回の興味関心のある子ども達が集まっていると思いますが、より多くの子どもに体験させるには、やはり学校の授業ではないかと思います。
　学校の教科や総合学習などのつながりができていくと良いと思います。

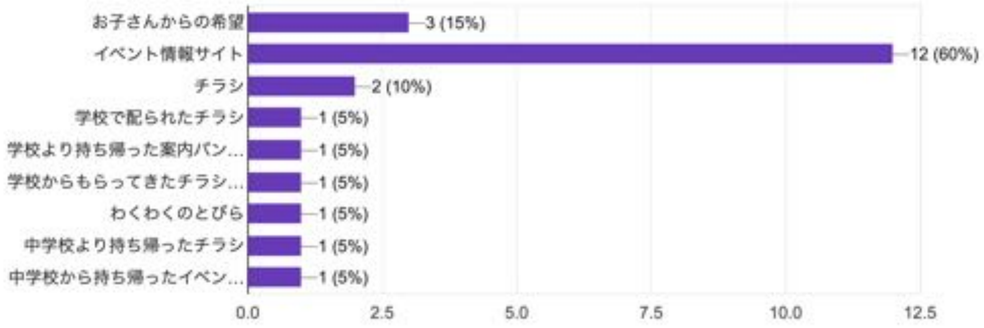
保護者のアンケート回答

実施方法：毎回同じ質問のアンケートを配布し、終了時に記入
総回答数：20

質問項目
１）お申し込みのきっかけ（選択式・複数回答可）
２）「きもの科学部に関心を持たれたきっかけを教えてください。（選択式・複数回答可）
３）本日の「きもの科学部」は、いかがでしたか？（選択式）
４）３）でご回答いただいた理由についてお聞かせください。（記述式）
５）今後、子ども向けの文化教育プログラムとして取り上げてほしいテーマがあればご記入ください。（記述式）
６）そのほか、運営面についてご意見、ご要望などありましたら、お聞かせください。（記述式）

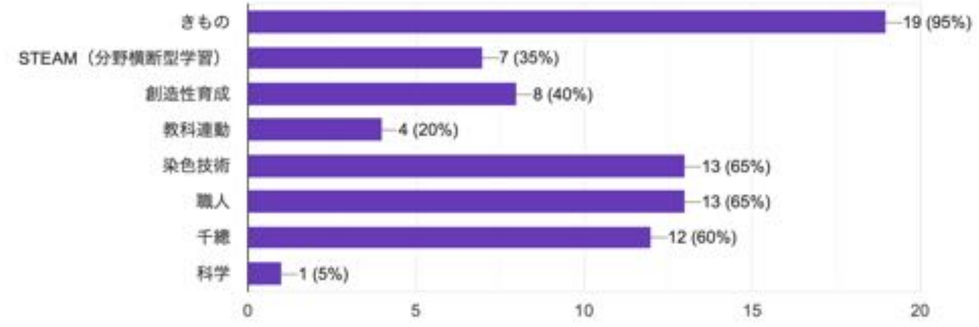
1）お申込みのきっかけ

20 件の回答



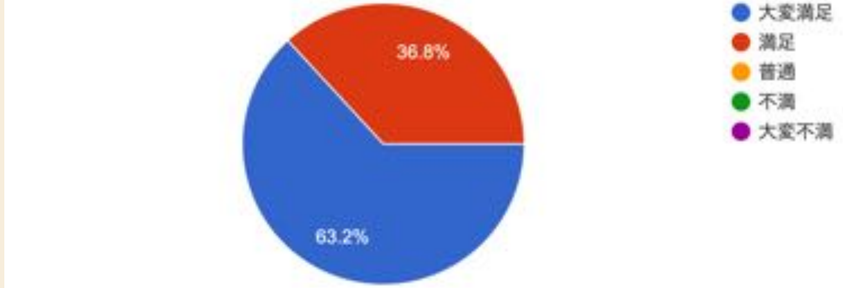
2）「きもの科学部」に関心を持たれたキーワード

20 件の回答



3）今日の「きもの科学部」の内容はいかがでしたか？

19 件の回答



４）３）でご回答いただいた理由についてお聞かせください。（記述式）

・講義が中学生にも分かりやすくワークショップもあり、楽しく学べる内容でした。現役の先生の話はとても分かりやすく親しみもありよかったです。
・普段の中学校の生活では触れないようなテーマ、少し高度な科学の知識に触れられたと思います。
・デザインと科学をまずは理論から学べて興味深かった、
・日頃、着物に接する機会はないのですが、目の前で着物をじっくり見れたこと、講師のお二人が子どもにわかりやすい説明をしていただきよかったです。私も勉強になりました。
・実際に職人の技術を拝見させていただけてよかったです。（細かく気が遠くなる作業で素敵な仕上がりになることに感動しました）
・実演を間近で見るだけでなく、体験させていただくことが出来て嬉しかったです。
・布のちがい、色のちがい、技術のちがいなどが実体験出来て、とても興味深かった。
・貴重な体験をさせていただいたので
・植物をよく観察して仕組みを知ることで、きものの図案やデザインにつながることがわかって良かった
・大変面白い内容でした。植物の知らない話が聞けて良かったです。
・植物のお話がとても楽しかったです。植物の生態がわかると着物の文様になった理由がより一層理解できました。
・植物について改めて考え知る事が出来ました。これから色んな目線で植物を楽しみたいと思います。物の見方を変えたら奥深さが増し、着物の良さも一層引き立ちますね！
・興味深いお話をありがとうございました。
・お着物と和歌を照らし合わせてみると増々奥深さを感じる事が出来ました。事実→見立て。日常の中で、まずは事実を把握することから見立てる習慣は大切にしたいです。物事に対して取り組むヒントがアドバイスもらえたり、わかりやすい説明が子どもにも大人にも入りやすくて良かったです。多重性知能理論、自分のことを知る事大切ですね！
・着物のデザインに込められた意味が面白かったので。文字をそのまま入れていたり、人物は省略されていたり、色々なやり方があるのだなと思いました。
・実演と自らもやってみる、この流れがよかったです。ありがとうございました。
・展示されている着物のデザインをした方、染めた方から直接お話を聞くことが出来たので。実演も楽しかったです。
・実践を交えながら教えてくださり、展示物の本物に触れる機会を与えてくださったため
・実際に着物をデザインする体験があり、貴重な時間でした。
・本物のデザイナーの方の実演や実感を直接見聞できて想像力が広がりました。

5）今後、子ども向けの文化教育プログラムとして取り上げてほしいテーマがあればご記入ください

・漆芸や陶芸のプログラム
・現代アートや現代の文学を千總さんの視点で取り上げていただければと思います。
・着物づくりを体験できる、和裁や染色など
・思いつかないですが、良いプログラムがあれば又、参加させたいです。
・着物の歴史や着方について
・作品などの発表の機会があればよいなと思います。
・テーマというとすぐに思いつきませんが、京都で生まれ育つ娘たちが、世界に向けて行く時代に生きている今、京都の良い伝統文化をもっと知れるテーマやプログラムがあると嬉しいです。
・特に、、、良いプログラムがあれば是非参加させたいです。
・素敵なイベントがあれば参加したいです。生け花、茶道etc...日本伝統を身近に感じられるプログラムを希望します。
・本日は子ども向けの文化教育プログラムの素晴らしい催しを開催していただきまして御礼申し上げます。きもの文化を次世代に関心を持っていただけるような歴史など取り上げていただきたく存じます。
・中高校生向けのイベント・実際に着物ができるまでの現場見学・デザイナーさん、職人さんの職場を見る訪問するプログラム
・小さな物でも良いので、最終的に作品として仕上げられるような取り組みができるプログラムがあればよいと思います。

６）そのほか、運営面についてご意見、ご要望などありましたら、お聞かせください

・案内も丁寧で分かりやすかったです。ありがとうございます。また次回もよろしくお願い致します。
・大きい部屋に大人がたくさんいて、初めての場所、人ということもあり、子どもたちは少し緊張したかもしれません。
・中学生以上の知識が合った方がわかりやすいので、対象を高校生までに広げても良いと思う。
・スタッフの皆さん、丁寧に対応してくださりありがとうございます。
・いつもスタッフの方々の丁寧で親切な対応にほっこりします。ありがとうございます！！
・今日はありがとうございました。次回もよろしくお願いします。
・最初は緊張感がある中で、ゆっくり試行錯誤しながら始まったが、段々リラックスしながら、深まりある体験ができたので、連続講座を通じての個々の成長が楽しみです。
・他の分野の知識と結びつけて考えるという試みがだんだんとクリアになってきたので、今後の展開が楽しみです。
・ありがとうございました。今回もとても楽しかったです。大人向けの講座もぜひお願いしたいです。
・いつもありがとうございます。学生さんのコメントでしっかりされてて感心しました。自分で見て考えて知る力を我が子にも身につけてほしいです。
・中高校生向けのイベントをしてほしいと思います。
・内容が濃いプログラムで良い経験となりありがとうございます。歴史に親子で参加できて感謝です。
・いつもありがとうございます。今日の着物も目の保養でした！
・初回に参加できなかったのが残念です。それくらい参加した回すべて楽しませて頂きました。ありがとうございました。また新しい何かがあるときには参加させて頂きたいです。
・素晴らしい企画と運営を有難うございました。子どもたちがきもの文化に触れる機会を今後も継続し文化を守り続けていただきたくお願い申し上げます。
・これまでの学習が最後にきものという作品に集約されつながったので、様々な観点で学ぶことの意義も感じました。

事業後アンケート

事業目標達成度を検証するため、参加者の日常生活における行動や思考の変化などについて保護者へアンケートを実施
回答数：７

第１回

日常生活に見られる色や、色の組み合わせに興味関心が深まった様子は見られましたか？「きもの科学部」のワークショップ（配色カードを用いて京都の風景を表す）の作業の続きに取り組まれていた様子はありましたか？その様子や言動を教えてください

・すごく関心を持ち、普段のコーディネートで色を気にするようになりました。
・色の組み合わせを考えたのがおもしろかったと言っていました
・家に帰り、妹へワークショップでの内容を話したり、作業をしたりしていました。
・配色カードの存在を知って、ネット上で色見本を調べるなどして、別の制作物の色決めの参考にしていた。

第２回

日常生活における衣類がどのように作られているか、やその色や形に興味関心が深まった様子は見られましたか？きものやきもの以外の伝統的技術について調べたり、体験したりなど、行動に変化は見られましたか？その様子や言動を教えてください

・呉服屋に飾られてる着物や着物姿で観光されている方に注目するようになりました。
・伝統的技術への興味が増したようで、すごく楽しかったようです。
・職人さんの技がすごかったと言っていました
・着物を見る機会があり、着物の柄の塗り方細部を気づけるようになりました。
・着物の色や味わいの微妙な違いを知ることにより、自分に似合う色や素材感を日常の衣類選びでも意識するようになった。

第3回

身の回りの植物を観察したり、調べたりするなど、その生態や特性に興味関心が高まった様子は見られましたか？その様子や言動を教えてください

・特に行動の変化はないのですが、この日にとったメモの量がとても多くいつも以上に先生の話を夢中で聞いていたようです。父親にもこんな話を聞いてきたと積極的に話していました。
・お家のお庭の草木を以前より気にするようになりました。
・描かれている植物にもいろいろな意味があることを知って驚いたそうです
・植物への興味はあまりないが、洋服の柄や模様に込められた作り手の気持ちに気づく発言がありました。
・もともと植物の観察が好きだったが、積極的に絵やデザインに取り入れていくようになった。

第4回

デザインに表された言葉、自身の気持ちを言葉に表すことへの興味関心が深まった様子は見られましたか？「きもの科学部」ワークショップ（和歌の創作）の作業の続きに取り組まれていた様子はありましたか？その様子や言動を教えてください

・創作や表現への意欲は薄いものの、古典文学や百人一首などへの興味が湧いたようです。
・作業の続きに苦戦しておりましたが、凄くいい経験になりました。
・和歌の創作に苦労していました
・特に変わった様子は見られませんでした。外面からなので、内面は分かりません。
・デザインに言葉が込められていると知り面白かったそうで、興味関心は深まったようです。
・作業は、完成はしませんでしたが続きを取り組んでいました。

第5回
デザイナーやものづくりの仕事への興味関心が深まった様子は見られましたか？「きもの科学部」のワークショップ（きもののデザイン）の作業の続きに取り組まれていた様子はありましたか？その様子や言動を教えてください

・デザイナーやものづくりの大変さを感じたようです。自分には出来ないわ~と尊敬の念を抱いてました。
・体調不良で参加出来なかかった為、締切までに課題を完成させて、提出したいと悔やんでました。
・平面の布が、着ると立体になるので、そこを考えてデザインするのがおもしろかったそうです
・家でも着物のデザインに取り組んでいました。とても素敵な着物ができていました。
・デザイナーが楽しそうと思ってたが、実際やらして頂くと難しいという感想でした。
・デザイナーと芸術家の違いをわかりやすく解説して下さったことにより、自分が将来進みたい方向性が見えてきた様子だった。
・またきもののデザインにも興味が湧いたようだった。
・デザイナーの仕事についての知識を得たり、絵の上手さや手描きの凄さに驚いたそうで、興味関心は深まったようです。作業も少し取り組んでいました。

その他、お子様とお話しされたことや行動や思考に変化が見られたことがありましたら、教えてください

・今までよりも、美術に対する気持ちが増しました。日本の伝統にも興味が深まり、未来への架け橋になってくれそうな気がします。
・全体を通して、とても楽しかったと言っていました
・着物が以前より身近な存在になったと思います。そして1着の着物ができるまでのどの過程も大変であることを実感してたと感じました。
・来年度もまた参加したいそうです。
・仕事現場をみたい、仕事への想いや考えを聞いてみたいと言っていました。

今後に向けて

・プログラム内容の検証

・学びの展開

・運営面の課題